

盛岡構想区域の構想実現に向けた論点について**1 盛岡構想区域の現状**

- (1) 平成 37 年にかけて 75 歳以上人口が大きく増加し、更に平成 52 年にかけても増加が続くと予測されること。他の二次医療圏の平成 37 年以降は、平成 52 年に向けて減少に転じる予測されていること。
- (2) 慢性期については、主に岩手中部構想区域、二戸構想区域、宮古構想区域等からの患者の流入が見られること。
- (3) 入院医療の完結率は 98.2%と高い水準にあること。
- (4) 療養病床、精神病床、特養・老健が多いこと。

2 各病院の現状

- (1) 各病院の病床利用率は、回復期 (91.8%)、慢性期 (89.2%)、高度急性期 (85%)、急性期 (77.1%) の順に高いこと。
- (2) 年間の新規入院患者数は、岩手医大附属病院 (26,008 人)、県立中央病院 (20,570 人)、盛岡赤十字病院 (6,094 人) の順に多く集中していること。
- (3) 年間の救急入院患者数は、県立中央病院 (8,861 人)、岩手医大附属病院 (4,684 人) に多く集中していること。
- (4) 各病院の入院患者の属性をみると、予定入院等 (44,251 人)、救急入院 (14,701 人)、予定外入院 (14,701 人) の順に多いこと。
- (5) 年間の救急入院患者数をみると、最も多いのは「家庭から入院」(5,1117 人)、「院内他病棟から転棟」(733 人)、「他医療機関転院」(568 人) の順に多いこと。
- (6) 入院患者の退院・退棟後の状況をみると、最も多いのは「家庭へ退院」(5,029 人)、「他病棟へ転棟」(759 人)、「他病院へ転院」(453 人) の順に多いこと。

3 論点の方向性

- (1) 不足が見込まれる回復期機能への病床機能の転換など、構想区域における病床機能の分化と連携
- (2) 地域完結型医療への移行を目指し、医療と介護の連携や在宅医療等の体制整備等。特に、地域の実情を踏まえた入院、在宅医療等、介護の最適な体制の整備。

※論点は裏面に続く

【論点１】地域の医療の現状の認識（充足していると思う機能及び医療）

全県の医療機能を支える中核的な役割が求められる一方で、地域包括ケアシステムの構築に向け、住民の高齢化に伴って増加する疾病への対応が必要と考えられること。

- ・回復期リハ病床等回復期機能の病床が少ない。
- ・地域包括ケア病床は少しずつ増えている。

【論点２】自院が現在、地域で果たしていると思う役割、役割を担う上で課題と感じていること

- ・入院患者の属性をみると、予定医入院が減少、予定外入院（救急入院）が増加している。
- ・家庭からの入院割合、家庭への退院割合が高い
- ・在宅医療の医療需要伸び率が県内で最も高い